



## 今回は 第64回プリマーテス研究会 の報告です。

### ◇ 最優秀中高生ポスター発表賞を受賞しました！

**日時** 2020年1月25日(土)・26日(日)  
**主催** 日本モンキーセンター  
**共催** 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院  
**内容**

プリマーテス研究会は、公益財団法人日本モンキーセンターで毎年開催される研究会であり、霊長類および野生動物についての研究・保全・福祉・教育に関わる発表、研究交流の場でもある。このたびの研究会で、関高等学校自然科学部霊長類研究班は、**最優秀中高生ポスター発表賞**を受賞した。発表メンバーは、熊崎真南風、酒井雄万、柘植幹大、渡邊みき、酒向由芽、山田珠実、小川果枝、竹山翔の8名である。研究テーマは、「シャバーニ群における個体間関係と環境の変化 ～コドモからオトナへの変化を追う～」であり、本研究班が2015年夏以来続けているゴリラの個体間関係に関するデータ分析である。 <http://www.j-monkey.jp/research/conference.html>

### ◇ 当日の様子

会場で一日もしくは半日近く説明や質疑応答を行う日本霊長類学会や動物学会のポスターセッションとは異なり、昼1時から午後4時まで、ほぼ口頭による研究発表を聞く側に回るという新しい経験をしました。

研究者や院生に混じって高校生が発表を行う姿は新鮮であり、この研究会が外部に向かって開かれていることを強く印象付けるものでした。

午後4時以降は、園内に設けられた別会場に場を移してのポスターセッションとなりました。美味しい軽食や飲み物が色々用意され、リラックスした雰囲気の中で、普段はお話をする事のない専門家の方々、他校の高校生や先生と、質問や意見交流を通じて触れ合うことができました。限られた時間でしたが、多くのことを学びましたし、立場の違いを越えて交流できるこの場を、心楽しいと思えました。

私たちの研究は、先輩たちの代から2015年以来、続けているものです。行動観察といっても1カ月1回程度ですので、データの的にも不十分です。様々な研究会で色々なアドバイスをいただいておりますが、なかなか次のステップに踏み出すことのできない現状にあります。今回の受賞は、そんな私たちへの「叱咤激励」なのではないか。そう考えて研究に取り組み、7月の霊長類学会を迎えたいと思います(新型コロナウイルスの問題が発生し行動観察もままなりません)。

今までのゴリラの研究に加え、新たに、チンパンジーとヒトの子どものナッツ割り行動の比較研究も始めました。次回の霊長類学会やプリマーテス研究会で発表できるよう、こちらも頑張ります。

